

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第23回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2006年4月17日 (月) 13:40~14:40
2. 場所 (株) オー・シー・エル 大会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 有富 (主査), 山路 (副主査), 丸茂 (幹事), 尾寄, 清水, 竹田, 二瓶,  
広瀬, 丸岡, 南, 宮田 (11名)  
(代理出席委員) 藤原 (酒谷代理) (1名)  
(欠席委員) 小佐古, 三枝, 高橋, 中込, 馬場 (5名)  
(常時参加者) 伊藤, 川上, 谷内, 藤本, 松本(務), 松本(光), 山田, 横山  
吉村 (9名)  
(欠席常時参加者) 青木, 石川, 大西, 奥西, 白倉, 高倉, 中谷, 藤田, 松永,  
山崎 (10名)  
(発言希望者) 山本 (1名)  
(傍聴者) 糸岡, 小澤, 千葉, 蔦沢, 坪井 (5名)  
(事務局) 厚

#### 4. 配付資料

##### 配付資料

- F4SC23-1 第22回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録(案)
- F4SC23-2 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準:2004 (AESJ-SC-F002:2004)」改定箇所及び改定方針並びに改定案
- F4SC23-2 添付1 附属書4表1~表5 (事象抽出例, 事象発生防止対策例)
- F4SC23-2 添付2 解説表1 金属キャスク及び使用済燃料集合体の安全設計の対象とする安全設計基準
- F4SC23-3 中間貯蔵施設用金属キャスクの製造時品質保証 (検査の役割分担) について
- F4SC23-4 附属書16 (参考) 代表キャスクによる伝熱検査実施の妥当性評価方法例

#### 5. 議事

##### (1) 出席委員の確認

事務局より, 17名の委員中, 開始時点で代理委員を含め12名の出席があり, 決議に必要な委員数 (12名以上) を満足している旨の報告があった。また, 事務局より, 山本 知史 氏 (三菱重工業 (株)) より発言希望者として, 並びに糸岡 聡 氏 (独) 原子力安全基盤機構), 小澤 慶剛 氏 (エンジニアリング開発 (株)), 千葉 匡志 氏 (東京電力 (株)), 蔦沢 雄二 氏 (原子力安全・保安院) 及び坪井 孝文 氏 (株) CRCソリューションズ) より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されている旨, 紹介された。

##### (2) 前回議事録の確認

F4SC23-1に沿って, 前回議事録の確認が行われ, 承認された。

##### (3) 人事について

###### a. 新委員の選任

主査より, 本日の分科会を持って酒谷委員 (石川島播磨重工業 (株)) 及び丸岡委員 (所属変更; 三菱重工業 (株)) → (独) 原子力安全基盤機構) の退任届けが出されていることが報告された。

尾寄委員より, 藤原 寛明 氏 (石川島播磨重工業 (株)) と山本 知史 氏 (三菱重工業 (株)) の委員候補推薦があった。

決議の結果, 承認された。

###### b. 常時参加者の新規登録

事務局より, 丸岡委員が次回からは常時参加者として登録を希望されている旨が紹介された。

決議の結果, 承認された。

また, 事務局より, 横山常時参加者及び山田常時参加者の所属の変更が紹介された。

##### (4) 標準の改定案の検討について

F4SC23-2, F4SC23-2添付1及びF4SC23-2添付2により分科会のこれまでの審議結果を反映した標準改定方針及び標準改定案について, F4SC23-3により中間貯蔵施設用金属キャスクの製造時品質保証について, F4SC23-4により代表キャスクによる伝熱検査実施の妥当性について説明された。

標準改定案は, 本日のコメント対応等の一部修正を幹事会にて行い, 電子メールにより委員の確認を得た

後、6月5日開催予定の原子燃料サイクル専門部会へ中間報告を行うこととなった。

主な議論を下記に示す。

- JNESにて行われている水素化物再配向に関する試験結果は、可能な限り標準に取り入れた方が良いと考えている。JNESの試験結果が、いつまでに示されれば標準改定案に反映できるのか。
- 原子燃料サイクル専門部会が6月5日と9月頃に予定されているため、9月の専門部会開催前までに示されれば、標準改定案に反映可能と考える。6月の中間報告時に、いつまでに報告されれば取り入れられるかを明確にする。
- 代表キャスクによる伝熱検査は、もう少しシナリオを整理すべき。デザインバイアナリシスであるのだから、その検証として、1基に対して伝熱検査を要求するといったシナリオの方が良いのではないか。
- 専門部会のコメント対応等については、次回分科会で検討することとする。

(5) その他

次回分科会は、6月19日（月）に実施予定とした。

以上